

○議長（古川元規） 加藤智恵子議員。

○3番（加藤智恵子） 議席番号3番加藤智恵子です。よろしくお願いします。

初めに、ケアハウスの設置についてお伺いします。

ケアハウスとは経費老人ホームの一種で、おおむね60歳以上、夫婦で入居する場合はどちらかが60歳以上の高齢者が入居できる安心の住まいです。

自分で身の回りのことはできるが、独り暮らしに不安がある方が対象で、1日3食の食事の提供や生活相談、見守りがあります。必要になれば外部の介護サービスを利用しながら、自分らしい生活を続けられるのが特徴です。費用は所得に応じて設定され、民間の有料老人ホームよりも比較的安く、安心して暮らせます。

本村には、特別養護老人ホーム「ふなはし荘」や認知症グループホーム「ケアホーム舟橋あいの風」はありますが、軽費老人ホーム、ケアハウスはありません。

本村でもケアハウスの入居を希望する声が以前から寄せられていましたが、村内にケアハウスはないので、入居希望者は大好きな舟橋村以外の施設に頼らざるを得ない状況です。

今年、2025年を迎え、およそ3人に1人が65歳以上の高齢者となり、75歳以上の後期高齢者は五、六人に1人となる時代に入り、ケアハウスの入居を希望する声が増えています。

また、ケアハウスの入居希望者は高齢単身世帯が多かったのですが、現在では高齢夫婦世帯や、子や孫と同居している高齢者からも、若い世代に迷惑をかけたくない。遠慮せず、仲間と自由に暮らしたいという理由で、入居を希望される方が増えています。

このような声を受けて、村として、ケアハウス設置の必要性をどのように認識されているのか。さらに、今後の方向性、整備の見通しについてお伺いします。

次に、ハンドル型電動車いす購入費助成制度についてお伺いします。

ハンドル型電動車椅子は、高齢者の外出を支える移動手段です。見た目は小型の電動スクーターに似ており、ハンドルで操作します。最高速度は6キロ程度と歩く速さで、歩道を安全に走ることができます。運転免許は不要で、買物や通院など日常生活の移動を支援する安心で便利な乗り物であり、足腰に不安があっても安心して外出できる移動手段です。自分の行きたいときに自由に動けることで、生活の楽しみや社会参加が広がり、心身の健康維持にもつながる大きなメリットがあります。

4輪タイプのハンドル型電動車椅子は、安定性が高く、転倒の心配が少ないため、高

高齢者にとって安心です。段差や坂道でもバランスを崩しにくく、外出先でも安全に利用できるのが大きな特徴です。車の運転免許返納後や歩行に不安を抱える高齢者の外出を支える生活インフラとして極めて有効です。

本制度導入により期待される効果は、ＱＯＬ（生活の質）の向上、閉じ籠もり防止・健康維持、送迎負担の軽減、これは家族も含めて。

これらの制度導入の必要性を踏まえ、以下についてお伺いします。

制度導入の必要性に対する村の認識。

補助率、上限設定を踏まえた財政規模の想定。

次、制度導入に向けた課題（財源、審査体制、業者連携等）と対策。

以上３点です。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（古川元規） 渡辺村長。

○村長（渡辺 光） ３番加藤議員のケアハウスの設置について並びにハンドル型電動車いす購入費助成制度についてのご質問に、併せて回答をさせていただきます。

まず、ケアハウスについてであります。特別養護老人ホーム、いわゆる特養の利用とまではいかず、議員ご説明のとおり、必要に応じたサービスを受けながらも、自分らしい生活を継続したいというニーズに適しているサービスであろうかと認識しております。

そのケアハウスが、願わくば、住み慣れた地域、もしくは比較的近い距離にあることで、年齢を重ねてからも安心して住み暮らせる心のゆとりにつながるものであるかと思っております。

現在、舟橋村の人口のボリュームゾーンは、４５歳から６０歳が人口数として多い年代となっております。今現在においても一定数の要望、ニーズがあることは承知しておりますが、今後さらにそのニーズは高まっていくことが予見されておりますので、来年度以降にでも地域の皆様の動向の調査や近隣のケアハウスの現状、課題等の調査を行いたいと考えております。

踏まえて、その先に、時間軸で精査し、整備の必要性の検討を深めてまいりたいと考えております。

続いて、ハンドル型電動車いす購入費助成制度についてのご質問に回答をさせていただきます。

こちらの件については、先般より、いずれかの時期に予算化の必要性があるのではな

かろうかと思案しておりました内容でありますので、この段でご質問をいただきましたことに、まずは感謝を申し上げたいと考えております。

本年度は免許返納者の方々に対して、移動手段はタクシーに限らせていただきましたが、その額面を増額し、現在予想以上の利用をいただいております。日常の移動支援の重要性を改めて認識しているところであります。

しかしながら、免許も取得されなかった方や返納されて一定期間が経過された方に対しては、現在舟橋村には公的な支援はない状況であります。

健やかに日々をお過ごしいただくには、日常の移動手段は重要な要素であろうかと感じております。その上で、ハンドル型電動車椅子の購入費助成については、議員ご指摘のとおり、ＱＯＬの向上、健康増進、関係者の負担軽減に資するものであらうと考えております。

現在、近隣自治体の動向や利用実績等も認識はしておりますが、車両の本体価格は４０万円前後と非常に高額になるため、その費用助成割合や運用規則などの精査は今後深めていく必要があります。

導入に際しては、段階的に対象者を広めていくことで、一時的な財政の負担もならせるものではなかろうかと考えております。

一方、ハンドル型電動車椅子は、十分な安全性の配慮からかと思いますが、道路交通法において速度、時速６キロメートル以下に制限がされております。

一例とはなりますが、舟橋村役場からお隣の立山町にあるスーパーセンター「シマヤ」さんまでの距離は約３キロとなっており、ハンドル型電動車椅子であれば、所要時間として３０分程度を要する見込みとなっております。この時間は、ご高齢の方に対しては、夏場においては大きなリスクになり得ると感じます。

そういったリスクも回避ができる手段の一つとして、令和５年７月１日施行となりました改正道路交通法において、免許不要で乗車できる特定小型原動機付自転車も選択肢の一つになるものと考えております。こちらについては、最高速度は時速２０キロメートル。小学４年生の平均的な５０メートル走の速さまで最高速度が出せるものとなっております。こちらであれば１０分足らずでスーパーセンター「シマヤ」さんまで到着することが可能になります。

今ほど夏場のリスク排除の一例としてご紹介をさせていただきましたが、今ほど申し上げた手法のみならず、そのほかの手法についても今後広く情報を得てまいりたいと考

えております。

総じてになりますが、高齢者を主とした移動手段のない方々にも日々満足な生活を送っていただけるような施策を、今後検討を深めてまいりたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議長（古川元規） 加藤智恵子議員。

○3番（加藤智恵子） 今ほどは、すてきな答弁ありがとうございました。

その目安としてシマヤさんに行くとか、電動自転車も挙げられるというのは、あ、その手があったかという感じで、とてもすばらしいなとは思っています。

それで、もともと今の高齢者、80歳以上ぐらいの方は、特に女性の方はなかなか、車の運転免許すら持っておられない方が多かったと思います、年代的にね。一家に1台で、お父さんかな、世帯主が運転しているという感じだったので。移動手段としたら、いつも家族にらせてもらう。そういう年代の方が多いので。

でも、スクーター型の電動車椅子だと、意外と安全に。ちょっと費用は違うかもしれませんが、遊園地のゴーカートに。子どもでも乗れるかなと。そういうことであれば、そこそこ判断力がある高齢者も乗れるのではないかと私は考えています。

それで、これは提案なんですけど、どこか広場で、高齢者の関心のある方に集まっていたいて、それが売ればなおよしなので、業者さんにそういう電動車椅子を持ってきたいて、ちょっと試乗会みたいのをしてはどうかなと思った次第です。どうぞ返答をお願いします。

○議長（古川元規） 渡辺村長。

○村長（渡辺 光） 今ほどの追加質問に答弁をさせていただきます。

80歳以上の女性の中で免許を所持されていない方が多いという情報、ご指摘、真摯に受け止めたいと思います。そういった方々にも広く利用できるような制度設計をしていきたいというふうに改めて感じたところであります。

そして、あわせて、そういった電動自転車と呼ばばいいんですかね、ハンドル型電動車椅子の事業者さんに、試乗会的なものという要望ではあったと思うんですけども、実を申し上げますと、今年の「SAKURA meets」の際に、富山市内にあります、電動車椅子を取り扱っている事業者さんと少しご縁をいただきまして、こういうのをどうですかということがあったので、こっそりではあるんですけども、そこで自由に乘っていただいてもいい機会というのを設けさせていただきました。

ただ、「SAKURA meets」に高齢の方が多く来られるかと言われると、そうではなかったので、事業の中で埋もれてしまったということは否めないかなというふうに思います。

私もあまり、いろいろラインナップがある中で、どれがどうだという認識はまだ現時点では持ち合わせておりません。あくまでもウェブ上で、どういうメーカーさんがどういうものを出しているという程度でしかないので、今後そういった事業者さんからも広く情報等の提供をいただきまして、願わくばこの試乗会的なものも開催できないかというところは模索してまいりたいというふうに考えておりますので、このタイミングにおいて確約的なご返答はできませんが、気持ちとしてはそういう方向性で対応を図りたいというふうに考えておりますので、ご理解のほど、よろしくお願いいたします。